

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500103		
法人名	特定非営利活動法人 まごころネットワーク		
事業所名	小規模多機能ホーム ほのぼのかん		
所在地	千葉県流山市大畔537		
自己評価作成日	平成25年1月30日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内にある他事業所と連携し、「支え合う心」をモットーに生き生きと安心した生活が送れるよう交流を持つ機会を作っている。
 また、特に力を入れているのが機能訓練です。
 今お持ちの心身の力を維持・向上していくことは、生活の上でとても大切なことと考え、できることはなるべく自分でできるように。また、介護者の負担がなるべく軽減されるように、生活の視点に立った、生活支援の機能訓練に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能ホームは在宅での介護を支えるサービスとして利用者にとってはとても心強いサービスであるが、反面事業運営としては大変困難な業態である。設立5年を迎え利用者の高齢化への対応が課題となっているが、併設の各種の介護サービスとも連携を図りつつ、通い・泊り・訪問のニーズに対応して懸命に利用者本位のサービスを提供している。管理者は機能訓練指導員であり、在宅での介護が継続できるように毎日機能訓練ルームを利用して生活リハビリに重点を置いた訓練を行い、楽しみながらADLの維持改善を図っている。また、高齢者の介護に熱い思いを持った看護師が中心となり、看護面での職員研修にも熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「支え合う」をモットーに我が家のように安心して過ごせる場所づくりに専念している。	「支え合う」をホーム設立以来理念として掲げ、リビングに掲示して職員・利用者で共有し、自立支援を重視した家庭的な支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣幼稚園との交流や、小学生・中学生の体験学習受け入れ、高校生・専門学生・大学生の介護実習受け入れなど、地域との連携を大事にしている。	自治会に加入し神社掃除やゴミゼロ運動などにも参加して、地域との交流をはかっている。また毎年小中学生の職場体験や、介護実習生の受け入れ等学校関係とも連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職業訓練の実習を受け入れ、福祉現場の基本を学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族や地域の方、包括支援センターの方からの意見を参考にしてミーティングで話し合い、サービス向上に努めている。	自治会長、民生委員、地域包括職員、家族代表などの参加を得て併設のグループホームと合同で、本年度から3か月に1度開催している。参加者からは毎回ホーム運営に対する意見や助言・要望など貴重なコメントを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携を大切にして協力体制がとれるように努力している。	流山市介護支援課他関係部門には日常の問題や、設備面でのアドバイスを受けるなど、都度相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者に自由に生活が出来るように見守りを強化している。夜間は外部からの侵入なども考えて施錠していると共に周辺の方々への呼びかけや、警察に協力を要請し夜間の見廻りなど強化している。	管理者は身体拘束廃止の研修にも参加し、また内部研修により職員の理解を深めている。ホームは併設の他の施設とともに比較的広い敷地内にあり、自由に往来できるように日中は施錠もせず見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などに身体的な観察を行い、また日常的な会話やしぐさなどから変化を見過ごさないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、身体拘束廃止などの研修、勉強会を開き、必要な事態に対応出来るよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者・ご家族と読み合わせをし、内容を十分に説明し理解していただいている。不明な点があれば電話でも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎時・訪問時の際や運営推進会議において、ご利用者やご家族の要望を伺い、出された意見や要望は運営に反映できるように努めている。	ひとり一人毎日の様子を1か月分まとめて「通信」として家族に報告し状況を共有している。送迎時や毎月の訪問時には家族と良く話し合い、意向を確認している。	アンケートへの利用者・家族からの回答が少なかった。引き続き連携強化に向けての取り組みを継続願いたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全職員にアンケートを取り、個別に対応し、少しでも意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように努めている。	毎朝の申送りミーティングでは気付きを報告し合い、また毎月の職員会議には全職員の参加を原則とし、介護や看護の勉強会などにも意欲的に取り組んでいる。	引き続き働きやすい職場、やりがいのある職場づくりの努力を継続願いたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力を励まし応援している。また、職員が少しでも働きやすい職場環境・条件になるよう日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを奨励している。研修等に積極的に参加させており、内部研修にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	通所部会や連絡会、講習会などに積極的に参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを素直に話せるようゆっくりと時間をかけて話を聞くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	送迎時や訪問時、電話等でも相談の機会を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況をよく見極め、その方に適したサービス利用を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と介護者という壁を取り払い、人として生活を共にする関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族、職員がみな情報を共有でき、少しでもご家族の介入が得られるように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域で会食を行ったり、行き慣れた公園に行ったり、菜園で収穫したり、その方が好きだった映像や音楽をなるべく流し、今まで大切にしてきた事を思い出せる機会となるように努めている。	行き馴れた公園や喫茶店等に行ったり、事業所内の菜園で季節ごとの収穫が楽しめる。居室では昔懐かしい歌謡曲等を流したり、歌ったりして昔を思い出せる機会になるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、食事や入浴、レクリエーションなど1日の生活を通じて、ご利用者同士が自然に関わりが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人にとってより良いサービスに移行が出来るよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけご本人の希望を尊重し、把握が困難な場合は、ご本人から直接伺うだけでなく日々の会話や表情・しぐさ等から思いや希望を推測し、またご家族からの意見も取り入れて検討している。	本人の希望や意向の把握に努めている。困難な方はイラスト等を活用して自己決定に繋がったり、家族や職員の意見を反映しながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、ご本人の話から少しずつ把握し、これまでに関わった方からでもできるだけ情報の提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用時だけでなく、家での状況もご本人やご家族から情報収集し、また、他職種からの情報も参考にしながら現状の把握に努め、定期的にモニタリングをおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・各関係者との話し合いから最善策を常に検討し合い、ご本人にとってよりよいケア計画づくりに努めている。	本人・家族・主治医・看護師等の意見を反映し、日々の話し合いや全職員のミーティング等で検討した上で、現状に合った介護計画の作成に努めている。	ケアマネジャーを中心に相談や話し合いを増やしてほしいとの声もあり、検討願いたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や身体状況などを事細かく個別記録に記入し、各ご利用者の情報をスタッフ間で共有することで、その方に合ったよりよいケアの方法やモニタリングに反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族の状況に合わせて、柔軟にサービスを組み合わせることが出来るよう取り組む努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報や回覧板などから地域資源を把握し、ご本人が楽しむことができるような機会を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力のもと、定期的を受診、往診されている。また協力病院と連携し、緊急時や夜間帯の対応をしている。	家族の協力のもと、かかりつけ医の受診を基本としている。月2回、協力医療機関の医師と協力歯科医の来診があり、希望により受診できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の2つの視点からとらえた情報をよく話し合い、必要に応じて受診をお勧めするなどの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族や医療機関と密に連絡を取り合い、退院時のカンファレンスなどに出席するなど、安心してスムーズに入退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意思を一番に考え、事業所が出来る最善の方法を説明し、理解をいただいている。	最後まで在宅を希望される方は、重度化しても医療機関とも連携して出来る限りホームで支援している。在宅での対応の困難と思われる場合には家族や関係者と話し合い、特養等の施設利用のアドバイスも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の外部研修には積極的に参加してもらい、また、内部研修を定期的に行い、全職員に緊急時に備えた知識と能力を身に付けてもらうよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、職員、ご利用者共に避難の方法を身につけていただくよう努めている。また、近隣の方々に緊急時の協力を呼び掛けている。	年2回防災訓練を実施しており、消防署の協力下での訓練の他に自主訓練を行っている。近隣からの協力も少しずつ増えている。避難のし易い1階で部分サービス提供をしているが、スプリンクラーの設置も検討中である。	引き続き防災訓練の充実等、災害時への備えの配慮をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お名前の呼び方や会話での言葉使いに十分注意し、人生の先輩として失礼のない対応をしている。また、排泄・入浴・更衣時などは、ご利用者が恥ずかしい思いをしないようプライバシーの保護に最大限の注意を心がけている。	子ども扱いをしないよう、利用者を「ちゃん」づけで呼ばない等、全職員に指導している。出来る限り自立支援に努め、利用者が恥ずかしい思いをしないよう、介助の際は最大限の注意を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自分の意思表示がしやすいような言葉かけや雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神状態に合わせて無理強いをせず、できるだけその方のペースや希望に合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者がその人らしく尊厳をもって生活できるように、身だしなみやおしゃれには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事・おやつ作りや配膳、下膳など、なるべくその方が出来ることを行っている。また、テラスでの食事や外食をするなど、少しでも食事が楽しみとなるように努めている。	できる方は職員と一緒に準備・片づけ等を行い、また自力で食べる支援を心がけている。明るく開放感のあるテラス(サンルーム)での昼食は楽しみとなっている。食卓では会話も多くアットホームな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できる限りご本人の希望に合わせた提供ができるように配慮しているが、制限がある場合はその方に合った食事量や水分量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアは行っており、夜間帯は義歯をお預かりし、消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご利用者の排泄パターンや能力を知り、改善が必要な場合には、その方に合わせた訓練を行い、可能な限り自立に向けた支援をしている。	自宅でのトイレ移動・移乗方法等を確認した上で、個々に合った機能訓練を行い、可能な限りトイレで排泄が出来るよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から食事や運動には気を使っている。また、ご利用時や家での排泄状況をご本人や家族の方とも情報を共有し、排便が習慣化されるように、できるだけ双方で合わせた時間にトイレへ行ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく午前中に入浴していただいているが、気分がのらない時や、調子が悪い時は、様子を見ながら行っている。	午前中に入浴が基本で、回数は季節に応じて設定している。気分や体調が悪い時などは、様子を見ながら午後に入浴も出来る。自分で背中が洗えるように、機能訓練にも力を入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて食後の休憩を取っていただいたり、個々の生活リズムに合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬が変更された時にはその都度、お薬説明書を確認し、ご本人と全職員が把握できるようにしている。また、なんらかの変化がみられた場合には記録を残し、ご家族にも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の方がやりたいと思う事や楽しめる事は可能な限り行えるように努めている。また、得意としている事や今まで行っている事も可能な限り役割として行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者やご家族の希望を最優先にし、外食や買物、ドライブや花見、散歩などの外出支援ができるように心がけている。	天気の良い日は事業所内の庭や近隣の公園へ散歩に出かけている。季節の行事、100円ショップでの買い物、外食、ドライブ等外出の企画が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用の方が趣味や嗜好、日用品などで必要としているものに関しては、予めご家族の了承を得てから買い物に行き、なるべくご自身で買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りはできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような装飾に配慮している。また、音、光、色、温度には特に気を使い、居心地良く過ごせるように努めている。	玄関に入ると利用者が作った季節ごとの作品や行事の写真が飾られ、共用スペースにもお雛様等季節感あふれる展示がされている。開放感のあるサンルームは明るく、暖かく、居心地よく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや静養室などを自由に使ってゆったりと一日過ごしていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの際、居心地良く過ごせるよう使い慣れたものや好みのものをご持参していただいている。	泊りの部屋は4部屋あり、月・火以外は毎日のように利用されている。泊りの際は利用者の好みの物を持参して頂き、本人が居心地よく過ごせるように呼びかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂の場所がわかるよう看板や暖簾などで工夫している。		